

## 公園等の充足状況分析結果（概要）

## 1. 分析目的

パークマネジメント計画や公園区計画の検討に向け、宝塚市全体または概ね小学校区を基本とする「公園区」における公園緑地や公園施設の整備状況やその特徴、居住者数や年齢構成、用途地域構成等の地域特性について情報整理を行う。

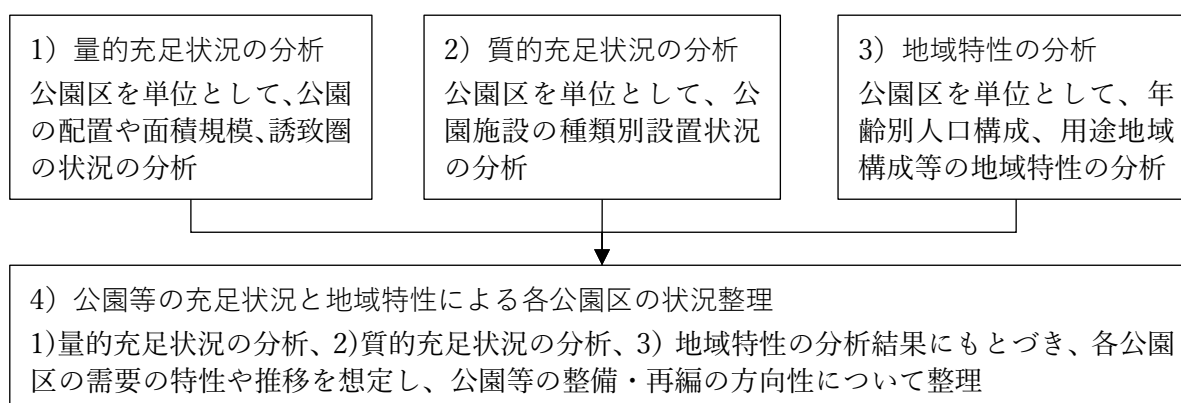
## 2. 分析対象

宝塚市が管理する都市公園 336 箇所、子ども遊園 30 箇所、合計 366 箇所の公園等施設。

## 3. 分析方法

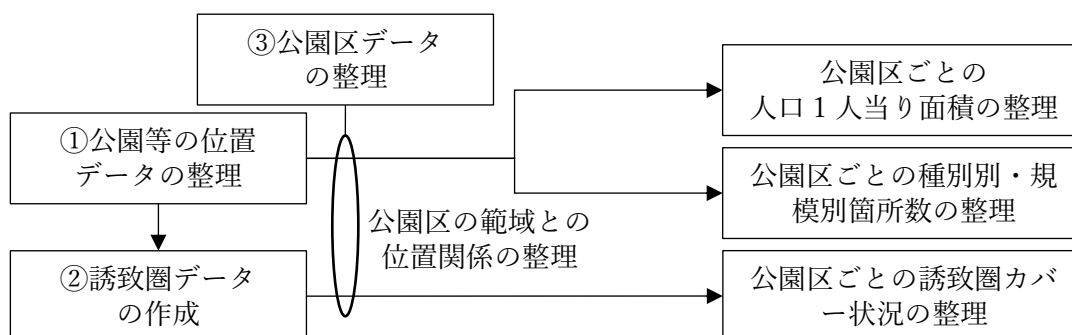
◆分析方法の詳細は、資料 04 別紙の II -3-8 頁以降参照

公園等の充足状況について、公園区一人当たり面積や誘致圏カバー率等の 1) 量的充足状況と、公園区ごとの遊具等施設の種類の別・単位人口当たり別施設数等の 2) 質的充足状況、人口特性や社会的特性（住宅所有形態、用途地域）による 3) 地域特性の 3 側面から統計解析等のデータ分析を行い、量的充足状況、質的充足状況と地域特性との相互の関係性の観点で整理を行った。



## 1)量的充足状況の分析

公園区ごとの①人口 1 人当たり公園等面積、②誘致圏カバー率、③面積規模別箇所数割合等の整理を行い、①について条例目標値の充足と、②③について市の平均値との対比による充足判定を行った。



## ①人口一人当り公園等面積の整理

国勢調査における人口データをもとに公園区ごとの推定人口の整理（注）を行い、各公園区に位置する公園等の面積を人口で除して、公園区ごとの人口 1 人当り面積の整理を行った。

$$\text{計算式} \quad \text{公園区ごとの人口 1 人当り面積} = \frac{\text{公園区に位置する公園等の合計面積}}{\text{公園区の推定人口}}$$

## ②誘致圏カバー率の整理

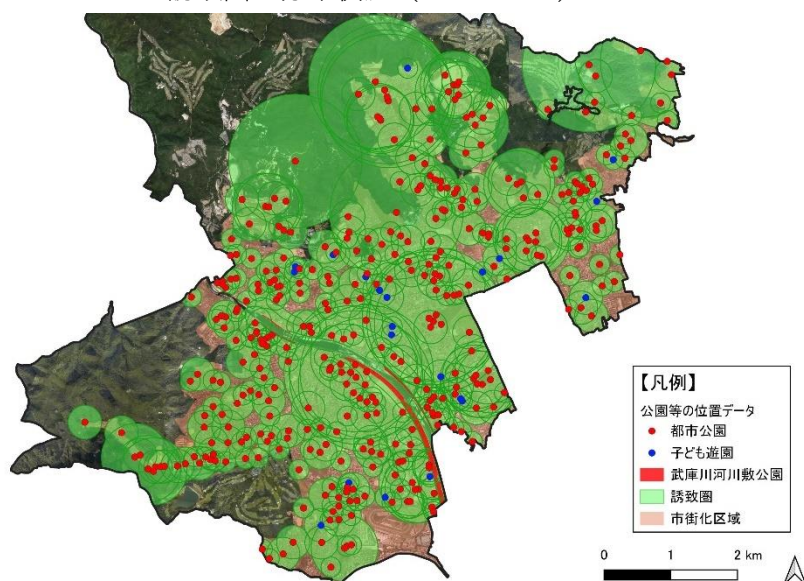
各公園等の誘致圏データ（GIS データ）と公園区の範囲との重複状況を整理し、公園区ごとの誘致圏カバー面積の割合を算出した。その際、標準的なもの（A）、小規模公園（1,000 m<sup>2</sup>未満）に対応した設定をしたもの（B）、面積比例するもの（C）の 3 パターンで検証し、誘致圏の分布状況からパターン B を選定。これにもとづく誘致圏カバー率の整理を行った。

誘致圏の設定（3 パターンについて検証）

採用

| 種別・種類 | パターン A<br>誘致距離標準 | パターン B<br>小規模公園設定あり                                          | パターン C<br>面積比例 |
|-------|------------------|--------------------------------------------------------------|----------------|
| 街区公園  | 250m             | 1,000 m <sup>2</sup> 未満 150m<br>1,000 m <sup>2</sup> 以上 250m | 面積に比例          |
| 近隣公園  | 500m             | 500m                                                         | 面積に比例          |
| 地区公園  | 1,000m           | 1,000m                                                       | 面積に比例          |
| その他種別 | (個別設定)           | (個別設定)                                                       | 面積に比例          |
| 子ども遊園 | 250m             | 1,000 m <sup>2</sup> 未満 150m<br>1,000 m <sup>2</sup> 以上 250m | 面積に比例          |

誘致圏の分布状況（パターン B）

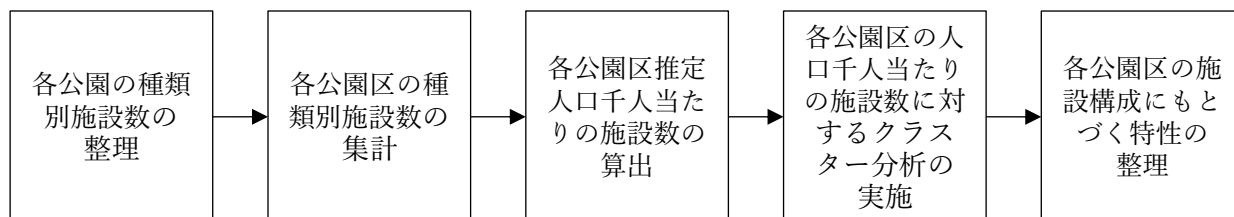


## ③面積規模別箇所数割合等の整理

各公園区に位置する公園等の面積規模別の箇所数、種別別箇所数を整理し、それらの構成割合を算出した。

## 2)質的充足状況の分析

公園区ごとの人口千人当り種類別施設数に対するクラスター分析（注）を行い、施設構成の特徴から類型化（児童用遊具等平均未満地区、幼児用遊具充実地区等）を行った。



注：クラスター分析は、データの集まりから、互いに似た性質を持つデータを集め、それらをまとめてクラスター（まとまり）として識別する、グループ分けのための分析方法。

### ■対象施設

分析の対象としたのは、長寿命化計画検討データにおいて、遊戯施設、一般施設の情報が揃っている 364 箇所の都市公園に位置する全 2,698 施設である。

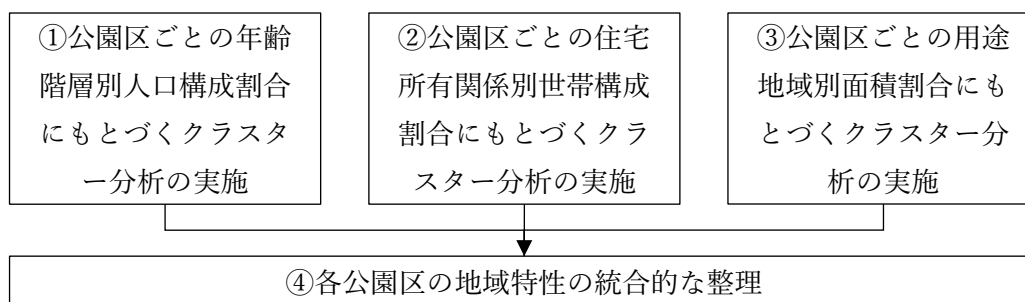
#### 対象施設の種類整理

※表中「幼児用遊具」は 3～6 歳、「児童用遊具」は 6～12 歳の子どもの利用を想定する遊具を意味する。

| 区分   | 大分類    | 小分類    | 施設種類数 | 備考                |
|------|--------|--------|-------|-------------------|
| 遊戯施設 | 遊戯施設   | 幼児用遊具※ | 8     |                   |
|      |        | 児童用遊具※ | 16    |                   |
|      |        | 健康器具   | 1     |                   |
| 一般施設 | 休憩施設   | 休憩施設   | 9     |                   |
|      | 交流施設   | 交流施設   | 1     | 交流施設にはステージを位置づけ   |
|      | 水飲み・水栓 | 水飲み・水栓 | 2     |                   |
|      | 水景施設   | 水景施設   | 1     |                   |
|      | 便所     | 便所     | 1     |                   |
|      | 防災施設   | 防災施設   | 1     | 防災施設には物資備蓄倉庫を位置づけ |
| 総 計  |        |        | 59    |                   |

## 3)地域特性の分析

公園区ごとの①年齢階層別人口構成割合、②住宅所有（持家、借家等）関係別世帯構成割合、③用途地域別面積割合についてそれぞれクラスター分析を行い、その結果の組合せについて④類型化（子育て層・借家地区、高齢層・持ち家地区等）を行った。



### ①年齢階層別人口構成割合の整理

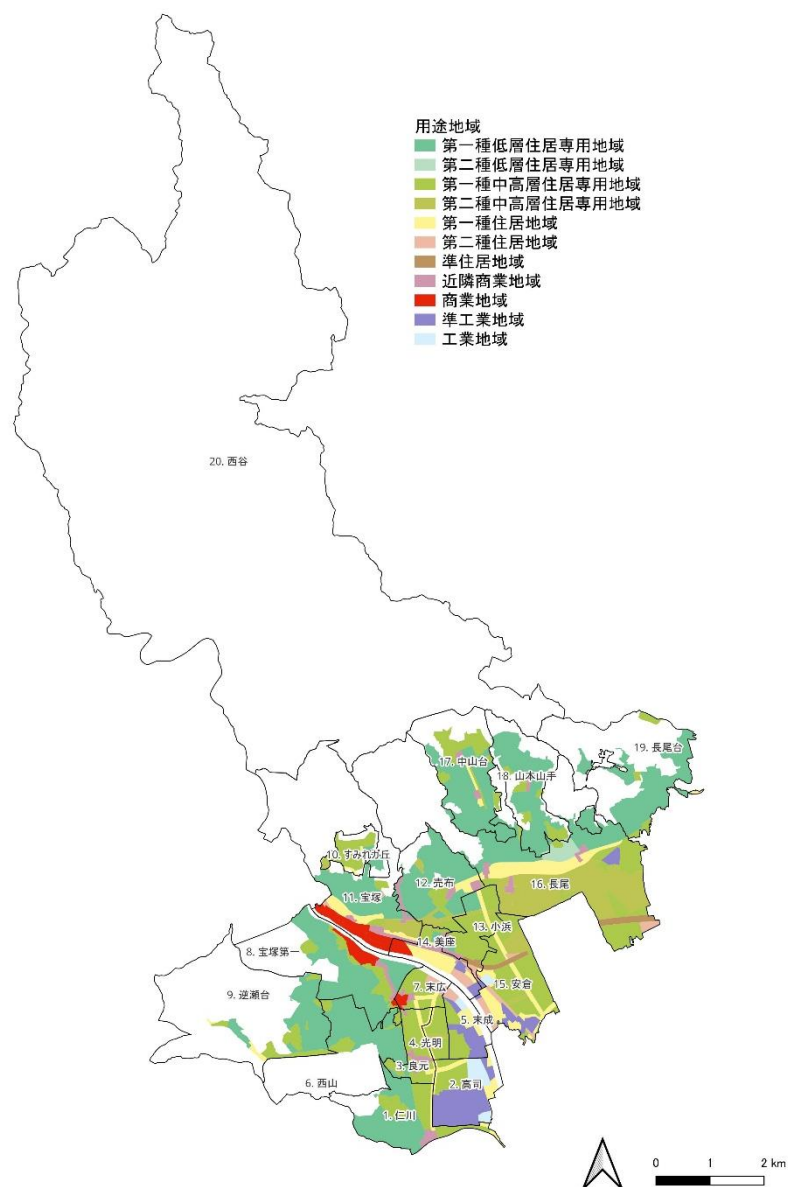
2020 年国勢調査結果における小地域（町丁・字等）別の年齢階層別人口をもとに、公園区ごとの年齢階層別人口を推定し、年齢階層別人口構成割合に対するクラスター分析を実施。

### ②住宅所有(持家、借家等)関係別世帯構成割合

2020 年国勢調査結果における小地域（町丁・字等）別の住宅所有（持家、借家等）関係別世帯数をもとに、公園区ごとの住宅所有関係別世帯数を推定し、住宅所有関係別世帯数割合に対するクラスター分析を実施。

### ③用途地域別面積割合

宝塚市都市計画用途地域指定 GIS データをもとに、公園区ごとの用途地域指定面積を算定し、用途地域指定面積割合に対するクラスター分析を実施。



都市計画用途地域指定の状況



各公園区の位置

## 4. 分析結果

### 1)各公園区の充足状況等に係る分析結果

◆分析結果の詳細は、資料 04 別紙のⅡ-3-24 頁以降参照

公園区単位の量的・質的充足状況、地域特性の整理結果の概要は次のとおりである。

#### 充足状況に関する評価の基準等

|        |                                                          |
|--------|----------------------------------------------------------|
| 量的充足状況 | 整備量（一人当たり面積）は市の条例目標値、誘致圏カバー率、小規模公園の割合は市の平均値を基準として充足状況の評価 |
| 質的充足状況 | 各公園区の人口当たり施設数の構成をもとに類型化。各類型の種別施設数の特徴を踏まえ、特性を解釈。          |

#### 各公園区の充足状況分析結果

##### 【凡例】

- 量的充足状況分析では整備量、誘致圏カバー状況、公園等の規模構成の3要素で評価を実施。うち◎は3要素とも充たす、○は2要素充たす、▲は1要素充たす、■はいずれも充たさず
- 質的充足状況：児童用遊具等平均未達地区■、施設設置標準地区■、幼児用遊具充実地区■、休憩施設充実地区■、ベンチ・水飲み等卓越地区■、遊具卓越地区■
- 需要の推移イメージ：子育て対応が重要■、高齢化対応が重要■

| 番号 | 公園区名 | 量的充足状況 |                                     | 質的充足状況       |                                       | 地域特性の特徴                                              | 需要の推移イメージ                                            |
|----|------|--------|-------------------------------------|--------------|---------------------------------------|------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| 1  | 仁川   | ▲      | 整備量が不足し、誘致圏の空白も広いが、一定以上の規模の箇所が多い    | 児童用遊具等平均未満地区 | 施設の設置数が市の全体平均と比べ少なく、特に児童用遊具の設置数が少ない地区 | 50歳代、70歳以上の人口割合が比較的高く、民営借家世帯割合が比較的高い地区               | 将来的には高齢化に対応した機能整備の重要性が増す見込みだが、幅広い世代の利用に対応した機能も継続的に重要 |
| 2  | 高司   | ○      | 整備量が目標を充たし、一定以上の規模の箇所が多いが、誘致圏の空白が広い | 施設設置標準地区     | 多くの施設が市全体の平均的な状況に近い標準的な地区             | 子どもと子育て世代の人口割合が比較的高く、高齢人口が比較の少ない地区で、民営借家世帯割合が比較的高い地区 | 将来的にも、子育て機能の維持・充実が必要                                 |
| 3  | 良元   | ■      | 整備量が不足し、誘致圏の空白が広いうえ、小規模な公園が多い       | 児童用遊具等平均未満地区 | 施設の設置数が市の全体平均と比べ少なく、特に児童用遊具の設置数が少ない地区 | 50歳代、70歳以上の人口割合が比較的高く、民営借家世帯割合が比較的高い地区               | 将来的には高齢化に対応した機能整備の重要性が増す見込みだが、幅広い世代の利用に対応した機能も継続的に重要 |
| 4  | 光明   | ○      | 整備量は不足しているが、誘致圏カバーが広く、一定以上の規模の箇所が多い | 施設設置標準地区     | 多くの施設が市全体の平均的な状況に近い標準的な地区             | 60歳代、70歳以上の高齢人口割合が比較的高く、民営借家世帯割合が比較的高い地区             | 近く高齢化に対応した機能の整備が重要である反面、幅広い世代の利用に対応した機能も継続的に重要       |
| 5  | 末成   | ◎      | 整備量が目標を充たし、誘致圏カバーが広く、一定以上の規模の箇所が多い  | 施設設置標準地区     | 多くの施設が市全体の平均的な状況に近い標準的な地区             | 60歳代、70歳以上の高齢人口割合が比較的高く、持ち家世帯割合が比較的高い地区              | 近く高齢化に対応した機能の整備が重要                                   |
| 6  | 西山   | ▲      | 整備量が不足し、小規模な公園が多いが、誘致圏カバーは広い        | 児童用遊具等平均未満地区 | 施設の設置数が市の全体平均と比べ少なく、特に児童用遊具の設置数が少ない地区 | 50歳代、70歳以上の人口割合が比較的高く、持ち家世帯割合が比較的高い地区                | 将来的には高齢化に対応した機能整備の重要性が増す見込み                          |
| 7  | 末広   | ○      | 整備量が目標を充たし、誘致圏カバーも広い                | 幼児用遊具充実地区    | 幼児用遊具が比較的多く、児童用遊                      | 50歳代、70歳以上の人口割合が比較的高く、民                              | 将来的には高齢化に対応した機能整備の重要性が増す見込み                          |

| 番号 | 公園区名  |   | 量的充足状況                              |              | 質的充足状況                                | 地域特性の特徴                                                  | 需要の推移イメージ                                            |
|----|-------|---|-------------------------------------|--------------|---------------------------------------|----------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
|    |       |   | が、小規模な公園が多い                         |              | 具が比較的少ない地区                            | 営借家世帯割合が比較的高い地区                                          | だが、幅広い世代の利用に対応した機能も継続的に重要                            |
| 8  | 宝塚第一  | ■ | 整備量が不足し、誘致圏の空白が広い、小規模な公園が多い         | 児童用遊具等平均未満地区 | 施設の設置数が市の全体平均と比べ少なく、特に児童用遊具の設置数が少ない地区 | 子どもと子育て世代の人口割合が比較的高く、高齢人口が比較的少ない地区で、持ち家世帯割合が比較的高い地区      | 当面は子育て機能が重要だが、将来的には重要性は低下する見込み                       |
| 9  | 逆瀬台   | ○ | 整備量が目標を充たし、一定以上の規模の箇所が多いが、誘致圏の空白が広い | ベンチ・水飲み等卓越地区 | 多くの施設が市の平均よりも多く、特にベンチ、水飲みが顕著に多い地区     | 60歳代、70歳以上の高齢人口割合が顕著に高く、持ち家世帯割合が比較的高い地区                  | 高齢化に対応した機能への速やかな整備が重要                                |
| 10 | すみれが丘 | ○ | 整備量が目標を充たし、誘致圏カバーも広いが、小規模な公園が多い     | 休憩施設充実地区     | 休憩所、ベンチ、水飲み等の休憩施設が比較的多い地区             | 50歳代、60歳代の壮年層の人口割合が比較的高く、持ち家世帯割合も比較的高い地区                 | 将来的には高齢化に対応した機能整備の重要性が増す見込み                          |
| 11 | 宝塚    | ■ | 整備量が不足し、誘致圏の空白が広い、小規模な公園が多い         | 児童用遊具等平均未満地区 | 施設の設置数が市の全体平均と比べ少なく、特に児童用遊具の設置数が少ない地区 | 子どもと子育て世代の人口割合が比較的高く、高齢人口が比較的少ない地区で、民営借家世帯割合が比較的高い地区     | 将来的にも、子育て機能の維持・充実が必要                                 |
| 12 | 売布    | ○ | 整備量は不足しているが、誘致圏カバーが広く、一定以上の規模の箇所が多い | 児童用遊具等平均未満地区 | 施設の設置数が市の全体平均と比べ少なく、特に児童用遊具の設置数が少ない地区 | 50歳代、70歳以上の人口割合が比較的高く、持ち家世帯割合が比較的高い地区                    | 将来的には高齢化に対応した機能整備の重要性が増す見込み                          |
| 13 | 小浜    | ▲ | 整備量が不足し、小規模な公園が多いが、誘致圏カバーは広い        | 施設設置標準地区     | 多くの施設が市全体の平均的な状況に近い標準的な地区             | 50歳代、70歳以上の人口割合が比較的高く、民営借家世帯割合が比較的高い地区                   | 将来的には高齢化に対応した機能整備の重要性が増す見込みだが、幅広い世代の利用に対応した機能も継続的に重要 |
| 14 | 美座    | ◎ | 整備量が目標を充たし、誘致圏カバーが広く、一定以上の規模の箇所が多い  | 幼児用遊具充実地区    | 幼児用遊具が比較的多く、児童用遊具が比較的少ない地区            | 50歳代、70歳以上の人口割合が比較的高く、持ち家世帯割合が比較的高い地区                    | 将来的には高齢化に対応した機能整備の重要性が増す見込み                          |
| 15 | 安倉    | ◎ | 整備量が目標を充たし、誘致圏カバーが広く、一定以上の規模の箇所が多い  | 休憩施設充実地区     | 休憩所、ベンチ、水飲み等の休憩施設が比較的多い地区             | 50歳代、70歳以上の人口割合が比較的高く、民営借家世帯割合が比較的高い地区                   | 将来的には高齢化に対応した機能整備の重要性が増す見込みだが、幅広い世代の利用に対応した機能も継続的に重要 |
| 16 | 長尾    | ▲ | 整備量は目標を充たしているが、誘致圏の空白が広く、小規模な公園が多い  | 児童用遊具等平均未満地区 | 施設の設置数が市の全体平均と比べ少なく、特に児童用遊具の設置数が少ない地区 | 子どもと子育て世代の人口割合が比較的高く、高齢人口が比較的少ない地区で、民営借家世帯割合が比較的高い地区     | 将来的にも、子育て機能の維持・充実が必要                                 |
| 17 | 中山台   | ◎ | 整備量が目標を充たし、誘致圏カバーが広く、一定以上の規模の箇所が多い  | 児童用遊具等平均未満地区 | 施設の設置数が市の全体平均と比べ少なく、特に児童用遊具の設置数が少ない地区 | 60歳代、70歳以上の高齢人口割合が比較的高く、持ち家世帯割合が比較的高い地区                  | 近く高齢化に対応した機能の整備が重要                                   |
| 18 | 山本山手  | ◎ | 整備量が目標を充たし、誘致圏カバーが広く、一定以上の規模の箇所が多い  | 休憩施設充実地区     | 休憩所、ベンチ、水飲み等の休憩施設が比較的多い地区             | 10歳未満を中心に子どもと子育て世代の人口割合が高く、高齢人口が顕著に少ない地区で、持ち家世帯の割合と、低層住居 | 当面は子育て機能が重要だが、将来的には重要性は低下する見込み                       |

| 番号 | 公園区名 | 量的充足状況 |                                    | 質的充足状況    |                             | 地域特性の特徴                                 | 需要の推移イメージ                   |
|----|------|--------|------------------------------------|-----------|-----------------------------|-----------------------------------------|-----------------------------|
|    |      |        |                                    |           |                             | 専用地域の割合が顕著に高い地区                         |                             |
| 19 | 長尾台  | ▲      | 整備量は目標を充たしているが、誘致圏の空白が広く、小規模な公園が多い | 幼児用遊具充実地区 | 幼児用遊具が比較的多く、児童用遊具が比較の少ない地区  | 50歳代、70歳以上の人口割合が比較的高く、持ち家世帯割合が比較的高い地区   | 将来的には高齢化に対応した機能整備の重要性が増す見込み |
| 20 | 西谷   | ■      | 整備量が不足し、小規模な公園が多い                  | 遊具卓越地区    | 幼児用、児童用遊具がともに市の平均よりも顕著に多い地区 | 60歳代、70歳以上の高齢人口割合が顕著に高く、持ち家世帯割合が比較的高い地区 | 高齢化に対応した機能への速やかな整備が重要       |

## 2)各公園区の充足状況を踏まえた今後の方向性

量的、質的充足状況の分析結果における各公園区の特徴や、地域特性から推論することのできる各公園区の現在および将来の公園等の需要想定から、各公園区の今後の公園等の整備・再整備の方向性について整理を行った。

### 短期・中長期の考え方

|          |                                                                          |
|----------|--------------------------------------------------------------------------|
| 短期的な方向性  | 概ね5年程度の期間に、質的充足状況と地域特性において顕著な乖離がある場合等に、主に機能による対応（施設整備等）を通じめざすべき方向性等の考え方。 |
| 中長期的な方向性 | 概ね10～20年程度の期間に、将来のまちづくりの目標や想定される地域像等を踏まえ、公園等の配置や機能による対応を通じめざすべき方向性等の考え方。 |

### 今後の公園等再編の方向性に関する考え方

| 方向性     |          |             | 概要                                                                                            |
|---------|----------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 機能による対応 | 新規設置の検討  | 多様な機能の提供    | 特定の年齢層に特化しない人口特性に対応し、子育てや健康づくり、憩い等の様々な利用に資する施設整備等を通じ、地域に必要とされる機能の提供について検討を行う。                 |
|         |          | 健康づくり等の需要対応 | 壮年・高齢層が多いという人口特性に対応し、健康器具や歩きやすい園路・広場、休憩所等の健康維持・増進、憩いや交流等に資する施設整備等を通じ、地域に必要とされる機能の提供について検討を行う。 |
|         |          | 子育て支援等の需要対応 | 子ども・子育て層が多いという人口特性に対応し、幼児用・児童用遊具、広場等の子育て支援に資する施設整備等を通じ、地域に必要とされる機能の提供について検討を行う。               |
|         | 現状維持     |             | 量的・質的整備状況が、地域特性を踏まえた需要の想定に対し、極端な過不足がなく、大幅な現状変更を必要としない状況。                                      |
|         | 既存施設の見直し | ベンチ等施設の適正化  | 地域に整備されている既存のベンチ等施設が、市全体の設置状況と比較し多い状態にあり、地域の需要を踏まえた設置規模の見直しを行う。                               |
|         |          | 休憩機能の適正化    | 地域に整備されている既存の休憩所等施設が、市全体の設置状況と比較し多い状態にあり、地域の需要を踏まえた設置規模の見直しを行う。                               |
|         |          | 子育て機能の      | 地域に整備されている既存の遊具が、市全体の設置状況と比較                                                                  |

| 方向性     |          |     | 概要                                                                    |
|---------|----------|-----|-----------------------------------------------------------------------|
|         |          | 適正化 | し多い状態にあり、地域の需要を踏まえた設置規模の見直しを行う。                                       |
| 配置による対応 | 公園等の追加確保 |     | 地域に必要な公園等の配置・規模に不足があり、地域の人口動向等の将来的な需要推移を見据え、地域に必要とされる公園等の提供について検討を行う。 |

今後の公園等再編・再整備の方向性

| 短期的な方向性<br>(概ね5年程度) | 中長期的な方向性 (10～20年間) |              | 公園<br>区数 | 公園区名      |
|---------------------|--------------------|--------------|----------|-----------|
|                     | 機能                 | 配置           |          |           |
| 子育て支援等の需要<br>対応     | 多様な機能の提供           | 公園等の追加<br>確保 | 1        | 宝塚第一      |
|                     | 子育て支援等の需<br>要対応    | 公園等の追加<br>確保 | 1        | 宝塚        |
|                     | 子育て支援等の需<br>要対応    | —            | 2        | 高司、長尾     |
|                     | 小 計                |              | 4        |           |
| 健康づくり等の需要<br>対応     | 多様な機能の提供           | —            | 1        | 光明        |
|                     | 健康づくり等の需<br>要対応    | —            | 2        | 未成、中山台    |
|                     | 小 計                |              | 3        |           |
| 現状維持                | 多様な機能の提供           | —            | 2        | 未広、山本山手   |
|                     | 多様な機能の提供           | 公園等の追加<br>確保 | 3        | 仁川、良元、小浜  |
|                     | 健康づくり等の需<br>要対応    | —            | 2        | 西山、売布     |
|                     | 小 計                |              | 7        |           |
| ベンチ等施設の適正<br>化 (※)  | 健康づくり等の需<br>要対応    | —            | 1        | 逆瀬台       |
| 休憩機能の適正化<br>(※)     | 多様な機能の提供           | —            | 1        | 安倉        |
|                     | 健康づくり等の需<br>要対応    | —            | 1        | すみれガ丘     |
|                     | 小 計                |              | 2        |           |
| 子育て機能の適正化<br>(※)    | 健康づくり等の需<br>要対応    | —            | 3        | 美座、長尾台、西谷 |
|                     | 小 計                |              | 3        |           |

※ベンチ等施設や休憩機能、子育て機能の適正化とは、地域の少子高齢化等の情勢変化を受け、利用が少ない状態となっている施設について、他の施設への転換や撤去等に向けた検討を行うことを意味する。